

千葉茂樹監督

川崎市在住

日本映画学校（日本映画大学の前身）元校長、日本映画大学特任教授

シグニスジャパン名誉会長、日本シナリオ作家協会会員、

生命尊重センター名誉会長、カトリックメディア協議会名誉会長、

1933年に福島県でお生まれになり、福島大学経済学部にご入学。勤労学生として勉学に励んでいらっしゃいました。このとき、黒澤明監督の「生きる」に感銘を受け、映画監督を目指すことを決意されます。そして福島大学から日本大学へ編入され、1956年に日本大学芸術学部映画学科を卒業。大学卒業時に応募をした「新人シナリオコンクール」に最年少で入賞。1957年、24歳のときに映画『一粒の麦』（芳村公三郎監督で映画化）で脚本家デビュー。その後、新藤兼人（かねと）監督に師事し、1974年にドキュメンタリー作品『愛の養子たち』で監督デビューされています。以降ドキュメンタリー作品制作を中心に精力的に活動。1979年に発表された『マザー・テレサとその世界』では、日本人として初めてフィルム取材を許可され、まだ無名に近かったインドの修道女マザー・テレサの活動を世界に先駆けて発信。本作はキネマ旬報「文化部門」第1位、毎日映画コンクール教育文化映画第1位、日本ペンクラブ・ノンシアトリカル部門第1位、日本赤十字映画祭特別賞・最優秀賞を受賞されました。マザー・テレサの初来日時には「マザー・テレサの祈り 生命それは愛」（1981年）を制作、また、教皇ヨハネ・パウロ2世の来日記録「平和の巡礼者」をf制作（1981年）。その他、劇映画「アウシュビッツ愛の奇跡 コルベ神父の生涯」（1981年）など。最新作「マザー・テレサと生きる」（2009年）は、生誕100年記念作品として自ら企画し完成させた映像です。その他のドキュメンタリー作品として、「アンデスの嶺のもとに」（1982年）は、毎日映画コンクール教育文化部門第1位。「豪日に架ける～愛の鉄道」（1999年）は2001年にOCIC・JAPAN特別優秀賞。「シネリテラシー・映画をつくる子供たち～オーストラリアの挑戦～」(2006年)にて2006年豪日交流基金賞を受賞。近年では、映画製作、教育活動の他、講演活動も活発に行い、全国各地でマザー・テレサとの出会いや、生命尊重、映画製作・教育などについて講演をされています。

映画

『心の山脈』（脚本 監督・吉村公三郎 1960年）

『マザーテレサとその世界』（監督・1978年）

『マザー・テレサの祈り 生命それは愛』（監督・1981年）

『マザー・テレサと生きる』（監督・2009年）

著書

『マザー・テレサとその世界』

『こんにちわマザー・テレサ』

『こんにちわ地球家族—マザー・テレサと国際養子—』

『映画で地球を愛したい—マザー・テレサへの誓い—』

『コルベ神父』

『映画で人を育てたい』

テレビアニメ

『山ねずみロッキーチャック』（脚本・1973年）

『赤毛のアン』（脚本・一年間53本。1979年）

テレビドラマ

『すし屋のケンちゃん』（脚本・1971年）

『ケーキ屋ケンちゃん』（脚本・1972年）

他、多数